

大相撲千秋楽、手負いの新横綱 稀勢の里が逆転優勝した背景？

13日目に左肩付近を痛めながら土俵に上がり続けた新横綱稀勢の里が、1差で追いかけていた照ノ富士を本割・優勝決定戦と連破し、逆転で2場所連続優勝を果たした。新横綱での優勝は貴乃花(95年初場所)以来、約22年ぶりで、大鵬、隆の里を含めて4人目の快挙。表彰式では君が代斉唱の段階から人目をはばかりなく涙した。

優勝インタビューでは「本当にこの応援と支えてくれた人たちのおかげ」と大声援に感謝した稀勢の里。

左上腕には青紫色のあざが広がっており、相撲を取るのも難しいと考えられていたが、照ノ富士に奇跡の連勝。土俵へ向かう心境を「気持ちだけぶつけようと思った」と振り返り、「自分の力以上のものが出た。あきらめないで最後まで力を出して良かったです」と語った。

横綱になると土俵入りをはじめ、これまでと異なる点が多くある。「今までの相撲人生の15年とは違う15日間。横綱の土俵入りも初めてやって今は疲れた。

見えない力をととも感じた15日間だった」と本音を漏らした。初場所で初優勝を果たした際には、確信に変えたいという趣旨の発言をしていたが、「今日の千秋楽は見えない力がはたらいたので、確信とはいかないけど、またこれを確信に変えられるよう稽古をしていい相撲を皆さんに見せられるよう頑張る」と謙虚に語った。



大相撲元横綱朝青龍のドルゴルスレン・ダグワドルジ氏(36)は自身のツイッターで、「稀勢の里の左肩全然力が入らない！！しかし勝ちたい気持ちが溢れる！！」と勝因を分析していた。・・・サンケイスポーツ

NHKの大相撲中継で解説を務めた元横綱北の富士勝昭氏(74)は稀勢の里の逆転優勝について、「土俵際が強いよね。2番見られるとは思わなかったし、まして逆転優勝なんて考えてもいなかった。照ノ富士は2番とも勝ちを焦ったね。本当に二転三転、予想つかなかったね、こういう結末は」と絶賛した。

・・・サンケイスポーツ

また元小結舞の海秀平氏(49)は本割の取組後、「勝った瞬間の大歓声、この10年でこれぐらいの大歓声は初めて」と興奮状態。優勝決定戦後には「本当の信じられないことが起こるもんですね。当たって砕けろという精神ではなく、ここまできたら勝ちにいくぞという気持ちが強かった」と驚いていた。

.....サンケイスポーツ

13日目に左肩付近を負傷し、病院に運ばれ、相撲をとれる状況ではなかった。
しかし、多くの応援にこたえたい！
新横綱として勝ちたい！..の気持ちが強く、
自らの意思で強硬出場を決定
最高位の自覚と責任が休場の選択肢を消したのだろう。



中学3年のとき、
テレビ越しに見た名勝負が今でも胸に強く刻まれる。
右膝負傷を抱えたまま強行出場した貴乃花が夏場所千秋楽で武蔵丸を倒して優勝した一番。
勝利の直後に浮かべた貴乃花の鬼気迫る表情のフィギュアが稀勢の里の自宅にずっと飾られている。



見えない力が出た
「千秋楽にあり得ない力が出た」



気迫と、使える右手を中心とした体の使い方
奇跡的な逆転優勝、22年ぶりの快挙

